

## 次号予告

### 特集 サプライチェーンマネジメント

サプライチェーンマネジメント概説	福島 美明 (日本ビジネススクエア)
SCMにおける TOC スケジューリング	竹之内 隆 (日本総合研究所)
サプライチェーンマネジメントの事例研究に関するレポート	山本 邦雄 (横河電機)
ベンチマーキングと SCOR	大石 高至 (ERP研究推進フォーラム)
SCMと OR	宮崎 知明 (富士通)

### 編集後記

●「インターネットの急速な普及により…」という書き出しの文書を最近よく目にする。今や、名刺には電子メールアドレスは欠かせなくなっており、広告にも URL を掲載する企業が増えてきた。そもそもは軍用 (ARPANET) からスタートし、主に教育・研究用として限られた範囲で利用されてきたインターネットが、ここ何年かで急激に一般利用されるようになった。今やインターネットは、電気・ガス・水道・電話などと同様な「社会インフラ」として認識されつつあるのではないだろうか。

●しかしながら、LAN を相互に接続し、草の根的・自律分散的に拡大してきたこと、その拡大が急激であったことから、現在多くの歪みが生じていることは事実である。例えば、良く知られている IP アドレスの枯渇問題、ルータ処理の大部分が経路 (ルーチング) 情報の相互交換に費やされてしまい本来のパケット転

送処理を圧迫している問題、ルーチング情報がバタつく経路フラッピングと呼ばれる問題などである。

●これらの問題は、全て分散指向のデメリットとして仕方の無いことであろうか。もちろん、分散指向でも「自己組織化」「創発」という複雑系のパラダイムが実現できれば理想ではあるが…一時期ダウンサイジングと騒がれた情報化の波も、やみくもな分散化による弊害の反省から、今や TCO 削減を狙った集中化・集約化という逆の流れになりつつある。

●上記の課題を解決するには、IPv6 と呼ばれる次世代プロトコルだけでは無理であろう。インターネットが「社会インフラ」として一般に定着するためにも、今月号の特集である「大域的最適化」の発想が必要ではないだろうか。オペレーション全体の効率化、リソースの有効利用、信頼性も含めた品質の向上等が望まれる。OR 的発想・手法がまさしく生かされる分野であると思うが如何であろうか。(吉野秀明)

### オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 大山達雄(政策研究大学院大学) 副委員長 田口 東(中央大学)

委員 葛山康典(早稲田大学)、栗田 治(慶応義塾大学)、笹山晋一(東京ガス株)、猿渡康文(筑波大学)、椎名孝之(財団法人電力中央研究所)、繁野麻衣子(筑波大学)、清水康司(青山学院大学)、外嶋成留(住友金属工業株)、田中宏和(神奈川工科大学)、田村明久(京都大学)、原 裕淳(株東芝)、宮崎知明(富士通株)、山下英明(東北大学)、吉野秀明(日本電信電話株)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成 11 年 5 月号 第 44 巻 第 5 号 通巻 461 号

代表者 水野 幸 男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 大山 達 雄

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-4-2 〒151-0051

### ●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円 (本体 924円) 年間予約購読料 11,040円 (税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社 (3546-1337)、日経弘報社 (3563-2241) へ